【北海道の状況】

新型コロナウイルス感染症に対する全国的な動き、日医の動き、専門家会議の見解、厚労省の動きを、連絡協議会での協議内容を通して前述した。また北海道の動きや北海道医師会での検討内容に関しても前述した。

１月28日本道で初めての感染者が報告された。武漢市からの旅行者であったが、その後２月14日本道では日本人で初めてとなる感染者が札幌市で報告され、２月19日以降毎日のように感染者の報告があった。２月24日29例目にはオホーツク管内で初の感染者が出て、これが本道初のクラスターとなった。（以来道内では19のクラスターが発生し、そのうち９のクラスターが５月末までに終息した）

札幌市では雪まつり（１月31日～２月11日）を契機に感染者増となり、２月28日北海道鈴木知事は、全国に先駆けて道独自の「新型コロナウイルス緊急事態宣言」を行った。（週末の外出自粛要請。３月19日まで）その後一時感染者が減少したが、転勤・進学が始まり、海外からの来道者が増加した４月初旬から再び上昇し、４月16日緊急事態措置を実施すべき区域となった。その後徐々に感染者の報告が減少しているが、いまだ終息には程遠い状況である。しかし今はひとまず、新型コロナウイルス感染症に対する行政（特に保健所･衛生研究所）の皆さまの日々の寝食を忘れた活動に対して、感謝申し上げたい。

【今後に向けて】

専門家会議では次なる波に備えて、以下の提言を行っている。①「検査体制」の更なる強化②「医療提供体制」の更なる強化③「保健所機能」･「サーベイランス」･「感染予防対策」の更なる強化④治療法･治療薬の確立、ワクチン等の開発の促進　等を挙げている。これらに関しては研究者の今後に期待するところもあるが、行政と医師会とが一体となって取り組まなければならない。筆者の先輩は「由らしむべし知らしむべからず」という言葉を筆者につぶやいた。これは「自分たちで情報を握り、国民に判断材料を与えない」という役人体質のことであるが、それでは巨大な敵には立ち向かえない。

武器（治療薬やワクチン）がない、兵站（医療物資）もない状況で、我々にとって唯一頼りになるのは、情報であった。その情報もない中での凄惨な闘いを行ってきた。今後は情報を公開し、市民・国民と共に立ち向かうという姿勢が必要だ。

暗い話題だけではない。北海道医報第1220号季節風に山科賢児北海道医師会常任理事がウイルスとの共存について記載している[2)]。また西浦博北海道大学教授の数理モデルでは、40％程度の感染で集団免疫に到達すると記載している[3)]。是非一読をお勧めする。

参考文献

１）日本医師会　都道府県医師会新型コロナウイルス感染症担当理事連絡協議会第１回（2020年２月21日）～第14回（2020年５月29日）

２）山科賢児　新型コロナウイルスの世界的流行　北海道医報季節風　2020年５月

３）西浦博　「８割おじさん」の数理モデルとその根拠　Newsweek 日本版　2020年６月９日

新型コロナウイルス感染症関連情報

新型コロナウイルス感染症に関する日本医師会からの通知等は、北海道医師会ホームページ「医師の皆様へ－感染症情報」に掲載しています。

ＵＲＬ：http://www.hokkaido.med.or.jp/doctor/infection.html